

お知らせ

新しい指定管理者

令和3~同7年度の指定管理者が下表のとおり決まりました。施設に関する内容は介護福祉課へお問い合わせください。

☎ 介護福祉課 ☎ 23-9660 FAX 30-9231

施設名	指定管理者
南老人福祉センター	特定非営利活動法人
南デイサービスセンター	ホームスイートホーム
北老人福祉センター	社会福祉法人
北デイサービスセンター	彦根市社会福祉協議会
佐和山デイサービスセンター	医療法人 友仁会

滋賀県警察官募集

(A区分:大学既卒、大学卒業見込み)

🎯 大学を卒業または令和4年3月31日までに卒業する見込みの者

📄 【男性】45人程度

📄 【女性】8人程度

🏠 3月1日(月)~4月20日(火)

🏠 試験日は5月9日(日)(草津市内)
※詳しくは滋賀県警察ホームページをご覧ください。

📞 滋賀県警察本部警務課採用係

☎ (フリーダイヤル) 0120-204-314

特別公開

3月8日(月)まで 井伊家13代直弼の愛娘弥千代の雛と大揃いの雛道具などを一挙公開。

3月12日(金)~4月13日(火) 「書斎の美-文房具愛玩-」

文字を書く際に用いる文房具は、古来、室内を飾る「文房飾(ぶんぼうしあざり)」の道具としても用いられ、さまざまな装飾が尽くされました。本展では、井伊家伝来品を中心に、多彩な魅力を持つ文房具の数々を紹介します。



▲埋木象文嵌入硯箱 小川破笠作

■ 展示解説 3月13日(出) 14:00~14:40

解説:当館学芸員 場所:講堂
当日受付(先着35人) ※無料(観覧料は別途必要)

常設展示では、井伊家に伝来した名宝を中心に約80点を展示しています。

4月13日(火)まで 能面 今若 井関家重作

やや憂いをふくんだ王朝の貴公子の面(おもて)。眉間に皺(しわ)を寄せた、気品と繊細さを兼ね備えた顔立ちが特徴です。家重は「天下一」を名乗ることを許された江戸時代初期の名工。



▲能面 今若 井関家重作

【お知らせ】令和3年度教室「古文書のみかた」

古文書解説を基礎から学ぶ教室です。開講は8月から、申し込みは6月頃を予定していますが、変更する場合があります。詳しくは追ってお知らせします。

■【休館日のお知らせ】3月9日(火)

■3月10日(水)・同11日(木)は、展示替えのため一部休室します。

消防だより



☎ 消防本部予防課 ☎ 22-0332 FAX 22-9427

春の火災予防運動

(3月1日(月)~同7日(日))

「その火事を防ごうあなたに 金メダル」



住宅防火 いのちを守る 7つのポイント

▶ 3つの習慣

- ①寝たばこは、絶対やめる。
- ②ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ③ガスこんろなどのそばを離れるときは必ず火を消す。

▶ 4つの対策

- ①逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- ②寝具や衣類、カーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
- ③火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置する。
- ④お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

全国山火事予防運動

春になると、登山などで山に入る機会が増えます。山には枯葉や枯草が多いため、山火事発生の危険性が高くなっています。

山火事を防ぐため、枯草などのある場所や、強風時・乾燥時には、たき火や野焼きをしないでください。たばこの吸殻は必ず消すとともに、投げ捨てはしないでください。

令和2年中 火災・救助・救急事案の発生状況 ※ () 内は令和元年中

☎ 消防本部警防課 ☎ 22-0337 FAX 22-9427

火災		救助	
火災件数	50件 (48件)	出場件数	66件
建物火災	26件 (34件)	火災	2件
林野火災	0件 (0件)	交通事故	30件
車両火災	3件 (2件)	風水害	0件
その他	21件 (12件)	水難事故	4件
死者	0人 (0人)	その他	30件

※主な出火原因~多い順~

令和2年:こんろ、たき火、たばこ、ストーブ
令和元年:たばこ、電気関係、放火(疑い含む)、たき火

救急	
出場件数	5,229件
急病	3,560件
一般負傷	794件
交通事故	433件
その他	442件

▶写真:金文字書付瓦硯(当館蔵)



硯の起源は、中国古代、周時代に、字を書いたり絵を描いたりする際に、絵具や墨をすりつぶすために用いた板にあると言われます。当初は凹凸の無いシンプルな形態でしたが、六朝から隋、唐の頃に、墨をする墨堂や墨汁を溜める墨池などを備えた形式が定まり、現代に受け継がれることになりました。日本には遅くとも奈良時代にはもたらされ、用いられるようになったと言われています。長い歴史の中で、硯の形や素材は、多彩な展開を遂げました。井伊家伝来の硯

ノートやペンなど、文字を書く際に用いる文房具は、現代の私たちにあって、身近な道具の一つです。悠久の歴史を持つ中国と、その影響下で文化を育んできた日本や朝鮮などの国々では、数ある文房具の中でも、硯と筆、紙、墨を「文房四宝」と呼び、特に重要視してきました。中でも、墨をするための硯は、現代ではほとんど使われる機会がなくなりつつありますが、かつては、四宝の第一として重きをなす存在でした。

硯の美 — 古物愛玩 —

ときの玉手箱

博物館からのメッセージ

第294回

この書付には、近江国蒲生郡の本願成就精舎(現在の近江八幡市の願成就寺)の瓦で、土中から発見されたものと記されています。箱書には、江戸時代の天明7年(1787)の年記があり、当時から数えて1,300年前の崇峻天皇時代の古瓦である旨が記されています。崇峻天皇時代の瓦か否かの真偽は分かりませんが、由緒ある古瓦と考えたために、硯に作り変えられたのだと想像されます。一見すると変哲も無い遺物を取り上げて、その由緒をたどり、身近な道具に作り変えて愛玩する。それは、歴史を学び、古き物を尊ぶ知的な営みと言えるでしょう。文房具をめぐる深遠な世界を垣間見せてくれる作品です。

【彦根城博物館学芸員 奥田暁子】

写真の作品は、テーマ展「書斎の美-文房具愛玩-」で3月12日(金)~4月13日(火)の期間、展示します。